

# 国際通りのバス停標識は、掲示物が破損していたり、市内・市外の乗り場が分りにくい

バス事業者への維持・管理の徹底指導を総合事務局にあっせん



総務省沖縄行政評価事務所

## 1 行政相談内容（要旨）



国際通り、牧志のバス停留所で、乗車する系統のバスが来たので、手を挙げて乗車しようとしたところ、バスの運転手に市内線の乗り場はここではないと言われて困った。通行人に聞いて初めて、バス停留所には市内線と市外線の区分があることを知った。

私が待っていた停留所の標識は、市内線と市外線の区別が分りにくく、時刻表や路線図が剥がれたり、落書きや民間業者の広告が張られたりしているため、ほとんど標識として機能していない。

停留所の標識の管理を徹底して、利用者の利便を確保してほしい。

また、停留所の標識がどこにあるのか分りづらいので、標識の着色などで識別できるような工夫をして欲しい。

## 2 当事務所の調査結果

今回相談のあった那覇市の国際通りの通りには現在、多数の土産店が立ち並んでおり、本県の観光にとって最大のメッカとも言えるメインストリートであり、1日に通行するバスの便数は約1千9百便にも上るとされているなど、県内有数の陸上交通の要衝ともなっている。

上記の行政相談を受けて、当事務所が国際通りのバス停留所（10か所）に設置されている標識（10基）すべての掲示事項の遵守状況及び維持・管理状況について、調査したところ（平成15年6月4日現在）、バス事業者による維持・管理が十分でないことから、掲示することとされている名称、運行系統図及び発車時刻のいずれかの掲示がないか又は汚損・破損により読みづらいものや、バス事業者以外の者による広告が貼り付けられているものがみられるなど、すべての停留所標識について、

バス利用者の利便上何らかの支障を生じている事例がみられた。(資料写真参照)

また、市内線と市外線とで乗降場所が2か所ある「松尾」及び「牧志」の標識の中には、他方の乗降場所の明示がない又は汚損・破損によりわかりづらいものや、市内線・市外線の区別の表記が全く判然としないものがみられた。

さらに、標識にバス事業者以外の者による広告が貼り付けられているためにバス停留所標識とは認識しづらい状況があり、電柱に近接して設置されていることにより離れた場所からの視認が困難な状況もみられた。

### 3 沖縄総合事務局へ事業者指導を要請 - 利用者の利便に配慮を！ -

このため、当事務所では、同種・類似の苦情の再発を防止し、バス利用者の利便を確保する観点から、民間の有識者で構成する行政苦情救済推進会議(座長：金城<sup>きんじょう</sup>秀三<sup>ひでぞう</sup> 元琉球大学学長)の意見を聴くなどして検討した結果、沖縄総合事務局(運輸部)に対して、平成15年6月25日、国際通りにおけるバス停留所標識に関し、次の事項について、バス事業者を指導するよう文書であっせんした。

**バス停留所の維持・管理について、バス事業者による定期的な点検を励行させ、標識への管理担当事業者等を明示すること。**

**によりバス停留所標識の維持・管理の徹底が期しがたい場合は、必要に応じて社団法人沖縄県バス協会内に、バス事業者等によりバス停留所標識の維持・管理等に関する連絡協議の場を設けること。**

また、当事務所は、併せて、沖縄総合事務局に対して、例えば、標識の着色により**バス停留所標識の視認性を高めるための何らかの工夫を行うよう**事業者<sup>に</sup>要請することについて、同文書で通知した。